

遠藤保子

専門：アフリカや日本の舞踊を対象に、文化人類学的視点から研究を進めている。最近では、ユースサービスにかかわる研究も始めている。趣味：読書（中でも推理小説）、温泉旅行。

#### 1. 専門演習の目標

この演習では、1. パフォーマンスとは何かについて、芸術やスポーツの分野に焦点をあて、様々な文献をもとに、概念や歴史について考察をおこなう 2. 特に今日の社会におけるパフォーマンスについて、その特性や機能・構造について検討する。3. 1と2をもとにパフォーマンスを実践し、これらをもとに卒業研究としてまとめる。

#### 2. 専門演習で扱う課題と内容

次の点を扱う。1. パフォーマンスに関する文献資料を収集する。2. 1の資料を読み、概要を要領よくまとめ、それに対して自分の意見（プラス面とマイナス面）を記述する。3. グループ&個人でその研究成果をプレゼンテーションする。3. パフォーマンスを実践し、その実践成果をまとめ、様々な観点から考察する。

#### 3. 授業の進め方・内容

**3回生前期：**小グループ（原則として4人～6人）を編成し、パフォーマンスと社会について文献資料を読み、要領よくまとめ、自分の意見（プラス面とマイナス面）をプレゼンテーションする。そのプレゼンテーションから明らかになった課題を解決し、その研究成果を、再度プレゼンテーションする。**3回生後期：**個人で研究テーマを設定し、レポートをまとめ、それをプレゼンテーションする。月に1回程度は、パフォーマンスの実践を行い、その成果をまとめる。4回生前期・後期：教員と相談しながら、3回生の研究成果をもとに卒業論文を執筆する。

#### 4. 必要とする知識

特になし。

#### 5. 関連する分野・科目・知識

身体表現論、芸術表現論

#### 6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

必要に応じて指定する。

#### 7. 独自に付加する選考方法

特になし。

#### 8. 受講生に望むこと

パフォーマンスに関する文献を読み、実際にパフォーマンスを行ったり、鑑賞することを希望する。